

思える毎日の営み」を大切に支援していると述べられました。

午後は、全日本手をつなぐ育成会副理事長 松井美弥子氏より「障害があっても、住み慣れた地域で当たり前の生活を」と題してのお話がありました。

- ・年会費は 幼児6,000円、小学生18,000円、中学生24,000円、高校生・成人36,000円、その他(市外施設利用者・在宅者)は6,000円。
- ・施設協力金 18才以上で市内の施設を利用する会員は、60万円の施設建設協力金を支払う。(5年~10年間で)
- ・全日本育成会「手をつなぐ」小学生以上の会員は全員責任購読。

育成会が宝塚市の特別支援学校卒業生の通う場の保障として、社会福祉法人が施設を建設するときには、常に育成会会員がその建設資金を応援してきた。

松井副理事長の子供さんも障害が重度だそうですが、障害が重い人も住み慣れた地域で人間として当たり前の生活をさせてあげたい。そしてわが子の自立は親が元気で応援できる間にすることが重要だとおっしゃっていました。

次に、本人活動ドリームエンジェル会長 小山田弘佑さんの「過去の自分と今の自分」と題してのお話し(提言)でした。

過去の自分：一人ぼっちで暗くて、自分の言いたいことも言えないマイナス思考。やってはいけないことがわかっていながら、自殺願望が強かった。

父との関係：今までずっと自分を支え続けてきてくれた父親のありがたさに気づいた。迷惑をかけてきた分、これから親孝行がしたい。

今の自分：これからしたいことは、ピアサポーターになる夢。支えられていた立場から、他の人を支える側になりたい。同じ思いを共有する当事者同士だから出来る支援がしたい。もっともっと仲間の輪を広げていきたい。とお話しされました。

最後に、山形県コロニー希望ヶ丘地域支援センター所長 菅 洋一氏より、住まいと余暇~特別なニーズのある人を含めた暮らしの支援~と題してのお話がありました。

当地域福祉支援センターは、県民からの寄附とお母さん方の寄附による1億円を元に設立されたそうです。そして希望ヶ丘共同生活事業所は、・介護と援助の一体型・4事業所、19ホーム、定員101名・入所施設からの地域移行についても、入所施設でもケアホームでも、そこでけんかなどのトラブルで本人の逃げ場がなくなる事がないように、戻りたい

人はどちらにでも戻れるようにしているそうです。19ヶ所のグループホームは、出来るだけ男女混合にしているそうで、やはり男女一緒にいるほうが、元気で楽しい生活になるとおっしゃっていました。

講演者皆さんのお話を伺い、ケアホームを5年先も10年先もそして30年先にも、ずっと継続してその人の人生を価値あるものに支援していくことが、大きな目標であることを改めて実感いたしました。最初に講演された高山氏が述べられた「1人の希望が点だけで終わらずに、大きな川の流れとして続いていくように努力していかねばならない。そして職場の職員は、当事者の声となり、その魂を伝えていくことが大きな仕事です。」という皆さんの熱い思いを深く心の中に刻み込んで、明日からの自分の活動の大きな力になるようにと決意して帰路につきました。(小泉 いと子)

拡大部会「障害者の犯罪について」に参加して

東成育成園支部 中島 由紀子

11月11日の拡大部会に当会理事で弁護士の辻川圭乃先生をお迎えして、「障害者の犯罪」をテーマにご講演頂きました。

八尾事件…2007年に障害を持つ青年が八尾駅の歩道橋から幼い子供を投げ落とした事件を覚えていらっしゃる方は多いと思います。辻川先生はこの事件で彼の弁護を担当され、事件の背景や警察・司法が知的障害者をどのように扱うかをお話し下さいました。

幼い子供が大好きな彼は、昼間子供を連れ回し、夜になるとどうしたら良いか分からなくなって、交番へ連れて行っては現行犯逮捕されることを繰り返していました。しかし、子供が大好きな彼がこんな事件を起こすとは考え難いことでした。

事件の背景に何があったのか…彼は「作業所に戻りたくない」と話していたそうです。当時彼は世話を焼きたがる女の子とペアで仕事をしていた、作業所も2人は仲が良いと思っていましたが、彼にとってその関係は大きなストレスだったようです。事件の前の半年間に起こした3回の他害行為が、彼のSOSだったことに誰も気付きませんでした。

また彼は精神科クリニックを定期的を受診していましたが、医師には障害の知識がなく、知的障害者にカウンセリングは無理と決め付け、睡眠剤を処方